

「発達心理学研究」(第33巻)特集号 公募論文募集のお知らせ

下記の要領で発達心理学研究第33巻特集号(2022年12月刊行予定)の公募論文を募集いたします。本誌では初めての**縦断研究**に関する特集です。発達心理学だけでなく、広く心理学領域あるいは社会科学領域において、今後数十年の縦断研究の指針を示すような内容となることを目指しています。どうぞふるってご応募いただければ幸いです。

(1) テーマ

縦断研究は発達の解明にどう貢献するのか

(2) 責任編集者

伊藤大幸(中部大学)・氏家達夫(放送大学)

(3) 企画趣旨

縦断研究は古くて新しい研究手法である。経済学分野ではパネル研究、医学分野ではコホート研究とも呼ばれるこの手法は、対象の変化の様相と機序を解明するための科学的手法として確立された地位を築いている。欧米では国の主導によるものも含め多数の大規模縦断研究が行われ(米国の National Longitudinal Surveys、英国の Millennium Cohort Study、ドイツの National Educational Panel Study など)、その膨大な研究知見は発達支援や政策展開の重要なエビデンスとして活用されている。翻って国内では、早くも今から60年前に「縦断的研究は要望されてはいるが、横断的研究によって代用されている傾向が強い」(高良とみ, 1960)と指摘されているが、残念ながら現在まで状況は大きく変わっていない。

そこで本企画では、発達心理学および周辺領域における研究例や近年の統計技術の発展を踏まえながら、縦断研究の役割と限界を改めて議論する。具体的には、(1) 発達心理学や周辺領域における縦断研究の実践例(横断研究の知見に何がプラスされたのか)、(2) 縦断データの情報を有効に表現するための統計手法、(3) 発達のプロセスとメカニズムを解明する上での縦断研究の方法論的意義と限界について複眼的に議論し、縦断研究が発達の解明にどのような貢献を果たしうるのかを明らかにしたい。

(4) 募集する論文の範囲

オリジナルの縦断研究の報告はもちろん、国内外の縦断研究のレビュー、統計分析を含む縦断研究の方法論の解説、あるいは縦断研究の意義や限界に関する考察など、縦断研究に関わる内容を幅広く募集いたします。広い意味での発達に関わる内容であれば、テーマや研究対象の年代は問いません。数ヶ月から数年のスパンで行われる典型的な縦断研究だけでなく、数十年にわたる生涯発達の視点からの縦断研究や、日誌法や経験サンプリングを用いたインテンシブな縦断研究も歓迎いたします。また、調査研究だけでなく、フォローアップを伴う実験研究、介入研究や、シングルケース研究も広く募集します。

(5) 募集要項

原著論文、展望論文、意見論文のいずれも可です。分量は、原則として、原著論文が刷り上がり 10 ページ以内、展望論文が刷り上がり 15 ページ以内、意見論文が刷り上がり 2 ページ以内です（理由書の添付により超過が認められる場合があります）。発達心理学研究の投稿規則 (https://www.jsdp.jp/contents/provisions_files/3-8kisoku.pdf) および「論文原稿作成のための手引き」 (<https://www.jsdp.jp/contents/~cmhenshu/paper/files/tebiki20209.pdf>) に沿って原稿を作成し、電子投稿システム (<https://iap-jp.org/jsdp/journal/>) よりご投稿ください。なお、投稿に際しては、添付票内および投稿論文内の論文題目の冒頭に「第 33 巻特集の公募論文」と必ず明記して下さい。投稿された論文については、編集委員会にて所定の審査を行います。

(6) スケジュール

投稿の締切：2022 年 1 月 31 日

原稿の審査：2022 年 8 月頃まで

刊行：2022 年 12 月下旬

(7) 問い合わせ先

日本発達心理学会事務局：office@jsdp.jp